つぐない

斎藤一之助

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
つぐない

【Ｎコード】
Ｎ０４０８Ｏ

【作者名】
斎藤一之助

【あらすじ】
ショートショートなので、ノーコメントということで。

緩やかな弧を描く白い砂浜に、青年は立っていた。
「アナタのパパさん、死ぬ前に、ぜひとも会いたかった、と言ってたヨ」
父の下で働いていた女性スタッフが、大きな瞳を伏せながら言った。熱帯特有の生暖かい風が吹くたびに、腰まで届きそうな黒髪が細い体に巻きつくように揺れている。
「私も会いたかったのですが、なかなか都合がつかなくて。本当に残念です。そこで、母と話し合った結果、墓の中に入れるよりも、父がなにより愛したこの島に骨を撒くのが一番ではないかと結論を出しましてね。それでやってきたのです。綺麗な、いい島ですね」
「ここがパパさんの故郷に、一番近い場所。だから、きっと喜んでくれるヨ。だってパパさん、島との架け橋になりたい、っていつも言っていたから。ワタシたちのために、身も心も捧げてくれたモノ」
青年はうなずいて、骨を撒いた。白い骨片が、柔らかい波に呑まれて消えていく。
「ろくに話をしなかったせいでしょうか。なかなか死んだように思えなくって」
「そうネ。でも、それでいいと思うヨ。パパさんの骨、サンゴになって、この地で生き続けるモノ」
「ありがとうございます」
青年は、父のスタッフたちと別れて機上の人となった。
遠ざかるサンゴ礁を見ながら、独り言ちる。
「身も心もこの島に捧げた、か。確かにそのとおりかもしれないな。私財を使い果たし、家族を捨て、挙句に愛人まで作っていたのだからな。あの下種に償わせるには、これよりふさわしい方法はないはずだ」
青年は目を閉じ、シートに体を預けつつ、付け足すようにつぶや

いた。
「調べたところ、島と故郷が陸続きになるまで、およそ二億四千万年。架け橋になると言った以上、それまでは、決して、成仏できまい」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0408o/

つぐない

2010年10月10日18時33分発行